

第5回湖南省産業振興戦略推進会議

議事録

■開催日時：令和2年2月18日（火） 午前10時00分～午前11時45分

■開催場所：湖南省共同福祉施設1階大会議室

■出席者名：

《委員》湖南省商工会 会長 上西 保
湖南省工業会 会長 園田 英次
甲賀農業協同組合 代表理事 専務理事 田村 安佐
湖南省農業振興協議会 前会長 小島 孝市
一般社団法人湖南省観光協会 理事 武村 みゆき
（株）滋賀銀行甲西中央支店 支店長 戸簾 和俊
ジャパニーズ株式会社 中野 龍馬
宇佐美菓子店 A la maison 宇佐美 千恵子
滋賀県立甲西高校 校長 岸本 英幸
近畿経済産業局地域経済部地域開発室 室長 谷原 秀昭
国立大学法人滋賀大学 社会連携研究センター 特任教授 近兼 敏
滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 塚本 礼仁

《事務局》

建設経済部 産業振興戦略局 局長 川口 光風
建設経済部 産業振興戦略局 次長 山元 幸彦
建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課長 坂田 晃浩
建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課長補佐 黄之瀬 敦美
建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課 主幹 本井 義久
建設経済部 産業振興戦略局 商工観光労政課 主事 寺村 憲人
建設経済部 産業振興戦略局 産業立地企画室 主査 木村 瑞生

《委託事業者》

（株）しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 部長 稲木 健
（株）しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 主席研究員 志賀 文昭

《その他》

傍聴人3名

■会議内容

1. 開会

2. あいさつ

湖南省産業振興戦略推進会議 近兼 敏 会長

3. 新年度以降委員委嘱について

4. 議事

(事務局)

- ・会議出席者数は12名。
- ・湖南省産業振興基本条例第18条第2項の規定により、会議成立の報告。

(1) 湖南省産業振興ビジョン策定に向けて素案検討

(議長)

- ・それでは、新たに受け取った素案に基づいて、これから議事を進行させていただきたい。最初に、この振興ビジョンの内容については、一部修正や加筆などを行っている部分があるので、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・産業振興ビジョンおよび実施事業の素案について、委託事業者のしがぎん経済文化センターから、修正した点、追加した点など中心に説明をお願いしたい。

(委託事業者)

- ・それでは、手元の資料を事前に見てもらっていると思うが、ビジョンの素案を説明したい。前回の昨年12月11日の第4回会議の際の資料から若干、修正をしているので、その部分も含めてご説明したい。
- ・ページを開いた裏のページは市長の挨拶、そして目次。次に、1ページの第1章については、修正なし。2ページもそのまま。3ページは産業振興ビジョン、実施事業の計画期間。「実施事業」という名前になっているが、従来は「実施プラン」という名前だったが、それを「実施事業」という名前に変更した。前期が5年、後期が5年、後期の最後に見直して、ともに5年間の期間を設定している。下の図表もそのように変えている。
- ・右の4ページは、第2章「主要産業の現状と課題」の現状分析。このページには、従来、RESAS（地域経済分析システム）からグラフ等を掲載していたが、少し

見づらいということなので、円グラフに変えたり、数値を明示したり、グラフを修正している。

- ・次の5ページの上のグラフも同じように修正している。下の(2)地域経済循環率については、前回の会議である委員から、湖南省は7番目ということだが、上位の6番ないしは下位の市町も掲載したらどうかという意見をもらったので、このような図表を掲載した。上位には竜王町、多賀町、米原市、以下3つの市があり、基本的に企業誘致に積極的な市町が上位にあって、地域経済循環率が高いとみられる。
- ・6ページは産業構造での特徴。これもRESASのグラフが見づらいので、作り直した。あわせて一番下に「付加価値額(企業単位)」というのがあるが、これがなかなか分かりにくいという指摘もあったので、文章の最後に、付加価値額とはどういうものか、計算式を使って説明している。売上高から費用総額を引き、給与総額、租税公課を足したものであるということ。費用総額というのは、売上原価と一般管理費ということなので、付加価値額とは企業の財務諸表でいう、いわゆる粗利(あたり)のようなものというように考えてもらえれば結構だと思う。それから、1点、修正。文章の下から2行目の右側に「次いで多いのは、運輸業・通信業」となっているが、「運輸業・郵便業」というように文言を訂正していただきたい。
- ・裏の7ページは、製造業についての分析。これもRESASが見づらかったので、グラフを修正した。上が製造費の出荷額の多い順に産業別にあがっており、下が常用従業者数の多い順に上から業種別にあがっている。
- ・次の農林業については、修正はなし。
- ・9ページ、上の品目別の農業産出額も、RESASのデータが見づらかったので作り直して見やすくした。
- ・10ページの商業、11ページの観光についても、そのままで修正なし。
- ・12ページの図表を見てもらうと、右側に前年比増減率というのが過去5年間、掲載されている。従来は、1年間分だけの変化をみていたが、1年間だけではなかなか流れが分からないだろうということで、少し長めに前年対比の動きを掲載している。したがって、それに基づいてコメントも変えている。例えば、全体の数字でいうと、平成30年は59万5千人で、前年に比べてマイナス5.0%と減少しているが、それまでの推移をみると、結構プラスで推移している。図表の一番下のところ、25年から26年の間では35.2%、次は15.8%、12.1%、16.8%と、全て二桁以上のプラスになっているが、たまたま29年から30年がマイナスになったということ。そういう意味では、少し長い期間でみると比較的堅調に推移しているということ。
- ・13ページは、特に修正はない。14ページの課題分析についても、特に修正はない。
- ・15ページの社会動向による将来分析についても、特に修正はない。
- ・16ページの第3章「基本方針などの体系について」は基本方針の説明の部分で、文章も変えている。要は、「湖南省型の産業モデル」が前回の説明文ではなかなか

分かりづらいということだったので、説明を変えている。

- 文章をみると、湖南省は自然環境、社会環境、産業環境などの恵まれた地域特性を有していて、それらの資源を最大限生かして、例えば、スマート農業による農業の活性化やインバウンドの増加という社会環境の変革をチャンスと捉えてこれからの産業振興に役立てていこうということで、域内の消費拡大、域外からの人やモノ、資本などの流入を増加させるという仕組みをつくり、こういったものが域内経済循環の向上を図るといふモデルの創出を目指していきたい、というように改めて定義をしている。その下の図にあるように、総合計画ともリンクさせながら振興を図っていこうということ。
- 17 ページです。上はそのまま、下の第4章「基本ビジョンと具体的な施策、実施事業、目標指標について」については詳しく説明したい。
- 基本ビジョンについては、強み、弱みといった内部環境要因、機会、脅威といった外部環境要因を組み合わせた「SWOT分析」で、5つの基本ビジョンを設定している。従来、これは各委員に見てもらっているのですが、オーソライズされているわけだが、この5つの基本ビジョンの1番目、「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」は、主に湖南省に既に進出している企業、これから企業誘致を図っていくといったところの施策。2番目の「域内企業の連携強化と起業・第二創業支援」は、地域内の地元中小企業の振興と起業・第二創業といったものの支援になる。3番目は「海外事業展開の支援や国際競争力の強化」ということ。4番目が「地域資源を活用した市・農商工+観光の推進」ということで、農業と観光の支援ということになる。最後の5番目が人材に関する支援ということで、職場環境の改善を通じて労働力を確保していこうということ。
- まず18ページの【基本ビジョン1】は、先ほど申し上げた企業誘致ならびに既に進出している企業の定着などに向けての支援で、3つの施策が具体的にあるということで、土地の有効活用とインフラ整備、産業基盤の整備、検討と企業誘致の強化、そして、道路交通網の整備とJR草津線の利用促進といったものがある。具体的な施策については、25ページ、26ページを見てもらいたいが、このページにはこの基本ビジョンに関するSDGsのマークをつけて、先ほど申し上げた内部環境要因、いわゆる強み・弱み、外部環境要因の機会・脅威といったものも併せてここに掲載している。
- この基本ビジョンでは、文章の下のほうの「そこで」というところからだが、工場立地法の緩和をはじめ、新たな産業団地の開発のためのプロジェクトチームの設置、研究機関などが併設されたマザーファクトリーの誘致を積極的に推進、交通インフラの整備、公共交通の利便性向上を行って企業誘致を積極的に推進していくというもの。
- 次のページの【基本ビジョン2】は、地域内企業への支援ということで、特に、立

地企業ならびに中小企業者といったものを対象にするということ。この中では、市内の素材メーカーや中間財のメーカー、加工・組み立てメーカーなどのサプライチェーンが技術協力、人材交流することによって、新たなビジネスチャンスの創出を図っていき、湖南ブランドといったものの製商品開発を進めていく、こういった動きを支援していくということ。また、創業支援については、地域資源の「見える化」を推進しながら、市内の人を含め市外からの起業者を受け入れるといった仕組みをつくり、SDGsの視点に立ったような社会課題解決型のイノベーションや女性の起業などを支援する体制を整備していこうというもの。

- ・ 3番目の【基本ビジョン3】は、企業の海外展開の支援。地元の中小企業者の海外事業展開の支援や多様なものづくりの支援といった、強みをさらに増強するとともに、専門的な経験やノウハウを持つ高度プロフェッショナル人材の活用、国際競争力の強化の仕組みを整備・推進していくということ。
- ・ 21ページの【基本ビジョン4】は、地域資源を活用した市・農商工+観光の推進ということ。まず、農業支援については、右側22ページの上だが、「下田なす」「弥平とうがらし」といった伝統野菜を使った「湖南ブランド」をまず作って、農産品の開発をしていく。そういった中で、農業者と福祉団体が連携して、農福連携を推進していく。それと、市のサポートの下に「みらい公園湖南」の有効活用。こういったものを通じて6次産業化を推進していくということ。また、観光については、産業ツーリズム、ウェルネスツーリズムといった、地域資源を活用した新しい体験型観光の企画・運営、観光情報の発信、インバウンド対策として無料Wi-Fiの導入促進を検討していきたい。特に農業分野については、高齢者、障がい者、産学官、研究農場、食品関連企業などの多様な担い手の確保にも取り組んでいくということ。あわせて、こちらの伝統野菜については、知的財産として国に登録するというGI登録も検討していくということ。最後に、ビッグデータといったものを使いながら、スマート農業の展開に向けて、ロボット、AI、IoTなどの先端技術の導入を進めて、市内農業の競争力強化にも取り組んでいくということ。
- ・ 最後に、【基本ビジョン5】の人材の問題。市内の立地企業、中小企業者での就業機会の創出、人材育成による若者の地元定着を図りながら、女性や高齢者、外国人材の雇用を促進していくということ。それにあわせて、働き方改革、ワーク・ライフ・バランスといった職場環境の改善、障がい者雇用の推進の取り組みも支援していくということ。
- ・ 続いて24ページに、市の総合計画と本ビジョンの関係性を掲載している。これは従来のものと同じ。左側に、市の第2次総合計画があり、右側に本ビジョンの基本ビジョンが掲載されている。それとの相関性をここで示しているということ。
- ・ 25ページは、具体的な施策について。基本ビジョン5つに対してそれぞれ3つずつの具体的な施策を挙げて、具体的な内容はそこに書いてあるとおり。右側の26

ページは細かい実施事業で、これもそれぞれの具体的な施策に対応して2つから5つぐらい、それぞれ挙げているということ。これは後ほど、実施事業の別のページで説明したい。

- 27 ページの目標指標は、基本的には湖南省の経済活動別市内総生産のデータを使うが、従来の資料では国の方針のGDPの目標から市内総生産を2%程度毎年、増やしていくという計画だったが、これを使う根拠を明確にしたということ。この経済活動別市内総生産は、一定期間内の市内の各経済分野の生産活動を客観的に示しているということで、これを使うことで、市という行政における経済規模を明確にして地域の実態を包括的に明らかにすることができ、あわせて地方行政の目指す目標の設定や施策の評価にも使えるということ。参考までに、2010年度から直近の2015年度の5年間の年平均の伸び率が大体2%なので、今後も2%ずつ毎年成長していくというような数字にして、2020年度、2024年度、2029年度の市内総生産額を設定した。伸び率は、基準年の2014年度から20年度は10%増加する、24年度は基準年から19%増える、29年度では31%増えるということ。これが一番大きな目標ということになる。
- 続いて28ページは、もう少し細かい目標というか、進捗評価に使用するための指標。それぞれ分野別の取り組みを定量的に評価するという指標で、基本的には、現在の段階でデータが収集できることが可能なもので、なおかつ毎年データが取れるものということだが、データ収集が難しくなれば、途中で状況変化に応じて見直しも必要かと思うが、基本的にはこれで進めていくということ。あわせて、これとは別に、例えば定期的なアンケート調査やモニタリング調査といったものも必要かと思っている。
- これは従来の指標から少し変えており、変えたところを中心に説明していく。少し細かくて恐縮だが、一番上のビジョン1の「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」の目標だが、「製造品出荷額等（従業者4人以上の事業所）」という指標に変えた。基本的には、直近の5年間で年平均伸び率が年率で4.5%増なので、目標は年率5%増ということで、現在5,269億円の製造品出荷額等を29年度には9,460億円までもっていきたいという目標。もう一つの目標は、交通インフラの関係で、交通センサスからデータを取った「国道1号線の旅行速度」、あるいは運行速度。岩根交差点から野洲甲西線間の下りの平均速度というものが交通センサスに出ており、時間当たり大体28.4キロというスピードだが、現在の2車線を29年度には4車線にもっていきたいということで、そうすることにより40.6キロのスピードまで上げていくという目標。40.6キロの設定については右側に細かく書いているが、1号線の参考となるところが2車線から4車線になったときの平均速度の上昇倍率を掛けて計算したということ。
- それから、基本ビジョン2については、「商工会主催の創業塾修了者数」に変更し

- た。現在、直近の 2019 年度は 38 名の方が参加、修了しており、大体毎年 10% ずつぐらい増えるということで、29 年度には 100 人の修了者数までもっていきたい。
- ・ 3 番目の海外事業展開の指標については、2 番目の「ジェトロ滋賀の貿易投資相談件数」で、湖南省の事業所からの相談分というように限定して挙げたもの。2019 年度 4 月から 12 月までの直近の相談件数は 23 件と聞いているので、これを月大体平均 3 件ずつ上げていって、最終的には 36 件までもっていければということ。
 - ・ 4 番目の農業ならびに観光支援のところでは、2 番目の「ここぴあの年間の販売額」を指標として設定したいと考えている。直近の 2018 年度で 1 億 6,200 万円ということだが、これを年率 6% 増ということで 3 億 800 万円までもっていきたい。
 - ・ 5 番の人材育成については、このまま。
 - ・ 29 ページは、第 5 章の重点プロジェクト。ここに挙がっている 5 つの基本ビジョンを推進するために、特に重点的に取り組むべきプロジェクトを 3 点と書いているが、従来、3 点だったが、1 点に絞り込んでいこうということで修正をお願いしたい。「みらい公園湖南」を拠点とした新たな価値創出プロジェクト、これに絞り込んだということ。従来はここに、「湖南省の起業ガイドによるビジネスマッチングとリクルートの推進プロジェクト」と「事業用地の整備による産業基盤強化プロジェクト」というのがあったが、「みらい公園湖南」のプロジェクト一つに絞り込んで推進していききたいというようになった。
 - ・ 次の 30 ページは第 6 章「推進体制と進捗管理」で、修正はないけれども、推進体制については市を挙げて産業振興に取り組んでいくとともに、地元の経済団体、教育機関、大学などとの連携を図って柔軟性を持って推進していくということ。進捗管理についても、この図にあるように P D C A サイクルを回していくことで進捗を管理していく。並びに、最後だが、着実に推進するために、本推進会議において P D C A サイクルに基づいて進捗状況を点検評価していこうというもの。
 - ・ 31 ページ以降は白紙になっているが、用語解説と委員名簿、推進会議の開催経過をここに書いていく予定。
- ・ 続いて、もうひとつの資料の「実施事業の素案」。従来、実施プランとなっていたのですが、「実施事業」というように変えたということ。
- ・ まず、目次があり、次の 1 ページに実施事業の内容と各機関の問題、想定している各機関の内容を挙げている。従来から変更していて、行政として国と滋賀県というのを挙げて、関係機関ということで支援機関を挙げている。支援機関も商工会から順番に挙げて、最後に産業支援プラザ。民間としては、市内の立地企業、中小企業者、金融機関、N P O。教育機関は大学、短大、専門学校、高等学校。
 - ・ 2 ページは、基本ビジョン 5 つを抽出するために使った S W O T 分析の全体の一覧表。左側に分野別の施策があつて、右側の上のほうに湖南省の特性と将来の見込み

といったものを併せて書いている。

- 3ページの基本ビジョン1は、先ほど申し上げたが、「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」ということで、新規の企業進出ならびに地元の進出企業の定着を図るというもの。工場立地法の緩和をはじめ、プロジェクトチームの設置等々があり、マザーファクトリーの誘致や交通インフラの整備、公共交通機関の利便性向上といったものに取り組んで、企業誘致を積極的に推進していくというもの。
- 1番目が「土地の有効活用とインフラ整備」ということで、内容的には右側に書いてあることだが、その下に具体的に5つの実施事業を挙げている。事業用地台帳の整備や工場立地法の緩和、産業団地などへの流通拠点施設（データセンターなど）の誘致、新たな産業団地開発のためのプロジェクトチームの設置や企業立地促進奨励制度の推進といったものが挙げられている。右側に、2020年度から24年度まで前半の5年間にどのように進めていくかというのを検討、実施、継続、見直しという4つの段階でそれぞれ表記している。
- 次の4ページ、2番目の具体的な施策として、「産業基盤の整備と企業誘致の強化」ということで、これも4つの実施事業が挙げられている。特に3番目のマザーファクトリーを主とした企業誘致といったものを積極的に推進していく。特に、県の産業立地推進協議会とも連携しながら進めていこうということ。3番目の道路交通網の整備、J R草津線の利用促進だが、これも次のページも含めて4つ、具体的な実施事業を挙げている。最後に、先ほどの進捗評価指標をこの項目の部分ここに挙げている。
- 6ページは、基本ビジョン2の「地域内企業の連携強化と起業・第二創業支援」。まず1番目は、中小企業の強みの発揮という意味で、多品種小ロット生産といったニーズ対応型の事業展開の支援をしていこうということ、3つの実施事業を挙げている。2番目が、湖南ブランドの製商品開発をしていこうというための相互技術協力、相互人材交流といったものの支援。これも3つ、実施事業を挙げている。次の3番目は、創業支援、起業支援ということだが、これも4つ挙げている。1番目の、SDGsの視点を活用したソーシャルイノベーションの推進ということ、地域循環共生圏の創造も入れている。そして、女性の起業支援も行うということ。それから、4番目の市外からの起業家の受け入れ、伴走支援の仕組みづくりといったものも進めていって、創業支援をしていこうということ。
- 次の8ページは、基本ビジョン3、「海外事業展開の支援や国際競争力の強化」。1番目が海外事業展開の支援強化ということ、ジェトロ滋賀の活用、ビジネスマッチングの機会の提供もやっぺいこうということ。2番目が、例えばものづくり産業の強みを生かした国際競争力の強化ということ、5つの実施事業を挙げている。3番目は、高度プロフェッショナル人材の育成・活用。これも、事業としては2つ挙げているところ。

- ・11 ページの基本ビジョン4は、「地域資源を活用した市・農商工+観光の推進」。観光については、新しい体験型観光の企画・運営、産業ツーリズムやウェルネスツーリズムの推進、観光情報の発信。農業では、地元農産物の生産・需要拡大、実践的な農業体験事業の実施ということ。それから、湖南ブランドの構築なども進めていくということ。観光のところでは、市内観光消費額を増加させようということで、3つの実施事業を挙げている。次のページの「みらい公園湖南」の活用ということで、これについては5つの実施事業を決めている。例えば、②の市内の企業や研究農場との連携では、市内には2つの研究農場があるので、そういったところとも連携して6次産業化を推進していく。⑤の企業の工場見学も、市内ではTOTOや三菱自工パワートレイン製作所、やまじょうといったところが実際にやっているようなので、そういったところの工場見学を通じて産業ツーリズムを展開していこうということ。そして、(3) 新規就農、農福連携の推進ということで、これも5本の実施事業を挙げているということ。
- ・最後に、基本ビジョン5、「人材の育成と職場環境の改善による雇用の安定化」は、まず、就労機会の創出と人材マッチングの推進ということで、これは現在31社が登録している「湖南省企業ガイド」を活用して、ビジネスマッチングならびにリクルートの推進をしていくということ。(2) が女性、高齢者、外国人材の活用ということで、これも3本の実施事業を挙げている。最後に、働き方改革、ワーク・ライフ・バランス、障害者雇用の推進ということで、これも3つ挙げている。
- ・16 ページは重点プロジェクトということで、先ほど申し上げた「みらい公園湖南」の価値創出プロジェクト、1つに絞り込んでいるということ。説明は以上です。

(議長)

- ・ありがとうございました。皆さん、一応、資料はご覧いただいているとは思いますが、今の説明の中で何かご意見などはございますか、いかがでしょうか。

(委員)

- ・私が前回の会議で意見したところをうまく反映してもらったと拝読した。ありがとうございます。
- ・ただ、幾つかありまして、まず形式的な部分から申し上げる。実施事業ではなくてビジョン本体だが、データの引用の部分でRESASを活用されていて、加工を加えてリアップしているという形だが、RESASの利用ルールというのが内閣官房で決められている。コンテンツを編集・加工して利用する場合は、出典を明記するとともに加工した旨を記載せよというルールがあるので、例えば5ページの棒グラフであるとか、5ページの下の部分の市町別のランキングといったところは加工していると思うので、加工した旨を記載しないと駄目かと思う。

- ・次に、5 ページの (2) の循環率のランキングだが、「…上位には企業誘致に積極的な市町が並んでいます」という表記が、これは本当にファクト（事実）なのかどうなのか、ちょっと疑問。確かに、何となく企業誘致に積極的な市町が並んでいるという印象は受けるが、何をもって積極的なのかというところ。ただ何となくなのか、この上位にある市町は全部、企業誘致の政策がきちんと他の市町に比べて準備されているのか、誘致する職員が下位にランキングされている市町よりも多いのか、何をもって積極的かがよく分からないというところ。ファクトでないならば、「企業の進出が多い」とか「企業進出がたくさんある」とか、主観ではなくてファクトを書けばいいと感じた。これが2点目。
- ・それから、変換ミスとか誤植の指摘は飛ばして、8 ページの上から2行目、3行目は、ですます調になっていないので、ここは修正したほうがいい。
- ・中身についてだが、12 ページの入込客数の対前年比が書かれていて、前よりもすぐ見やすくなったという印象を受けるが、「ここぴあ」も含めてオートキャンプ場などもそうだが、足元が落ちている。これはちょっと目立つという感じがする。上に書いてある文章を読むと、足元は落ちているが、それまではたいへん伸びていたという明るいトーンで書かれている。むしろ気になるのは、多分「ここぴあ」はオープンの次の年なので、反動が出てマイナスだと思うが、十二坊温泉とかオートキャンプ場、善水寺は、なぜ落ちたかの要因次第では、明るいトーンで書くのか、ちょっと厳しいというトーンで書くのか変わってくるという印象を持っている。この辺の分析がちょっと要るという感じがした。
- ・あと、「SDG s」のアイコンが描かれているが、SDG s のことに全く、触れられていなくて、突然アイコンがこここのところにポンと出てきている。例えば1 ページの最初の「背景と趣旨」にSDG s のことを書くとか、あるいは第4章が始まる冒頭の部分、17 ページぐらいに書くとか、少しSDG s のルールを見ながらというのをに入れて、18 ページ以降のアイコンが登場するという感じのほうが自然かと思う。このアイコンは、市でオーソライズされて入れ込んだのか、何となくこのビジョンを見ながらこれに該当するだろうというように入れたのか、どちらなのか。

(委託事業者)

- ・まだ、オーソライズされていない。

(委員)

- ・分かりました。例えば、19 ページの基本ビジョンの2は、ここに書かれている目標以外に、目標の2「飢餓をゼロにする」という目標が該当する。17 の目標の中の169 のターゲットを詳しくみると、「飢餓をゼロにする」という目標の中には、小規模農家の生産性及び所得を倍増させるというように書かれているので、湖南省

と飢餓というのは直接、結びつかないけれども、169のターゲットベースでみると該当するのが出てくる。同じく、目標の5「ジェンダー平等を実現しよう」というのも、女性という部分で入ってくる項目がある。もうひとつ、目標の10「人や国の不平等をなくそう、格差を是正する」というのも、169のターゲットベースでみると入ってくる。それから、21ページ。細かな説明は割愛しますが、目標の2「飢餓をゼロにする」と目標の12「つくる責任、使う責任」も該当してくると思う。以上です。

(議長)

- ・ありがとうございます。SDGsのマークについては、私も指摘していて、もう一度、チェックをして適正なものを入れるようにしてください。他に何かございませんか。

(委員)

- ・今日の会議の主題というのは、アイデアを求められるとか、何かあるのか。

(議長)

- ・今の説明の中の「てにをは」的なものは別として、この中にこれを入れてほしいというのがあれば、意見として言ってもらって結構です。

(委員)

- ・では、意見を言える場所としてはここしかないということ。

(議長)

- ・そうです。ぜひ、意見を言ってください。

(委員)

- ・印刷物の文章とかの内容はよく分からないが、この後にパブリックコメントを市のホームページで募集すると思うが、集めるのは多分、難しいと思っている。この計画はデータもあるし、それに基づいて細かいものもあるし、すごく良いと思うが、怖いのは、多分このままだと、行政がそのまま進めるだけで、民間の関わりしろがない状態の計画になってしまって、一部の人たちだけしか関わることがない計画になるんじゃないかと思う。こういう計画では何らかの関わりしろがいろんなところにあるので、1個ずつ、これはこの人というピンポイントを当てて、話を聞きに行くとかしたらどうか。「パブリックコメントで集まりませんでした」、「計画は決まりました」、「実行します」じゃなくて、それぞれもう少し門戸を開いてやったほう

がいいんじゃないかと思う。

- そのときに、この書き方だとあまりワクワクしない感じがする。行政的に進めるのはいいと思うが、民間は置いていかれてしまうだろうと思う。なので、その見せ方は、もう少し見せ方ができる人が入ったり、民間でもいろんな事業者がいるので、もう少しピンポイントに話を聞きに行くなどしたほうが、民間掛ける行政で面白いことができるんじゃないかと思った。
- パブリックコメントを集めるというのはすごくいいと思うが、多分そこからでは何も発展しないから、発展するやり方、今までのやり方とは違うやり方でチャレンジしてみてもらえると、すごくいいかと思っている。そのチャレンジするやり方も、募集するとか、面白そうな人に声をかけるとかをやるほうがいいんじゃないかと思った。

(議長)

- ありがとうございます。一応、各委員は各界の代表として出てもらい、その中でできるだけ皆さんの意見を取り上げていこうということで作成している。具体的にどう進めていくかということは、この振興ビジョンの中でまた具体的に決めていくと思うが、5年たったときにもう一回、見直しをするということを入れざるを得ないのではないかと個人的には思っている。
- 例えば、本日は、市内で創業された委員に来てもらっているので、創業の部分は本当にこれで進めていいのかといったところの意見を今日、出しておいてもらって、これを議会でみてもらい、パブリックコメントの中に入れていきたい。だから、追加、修正の部分をこの会議の中で言ってほしい。創業のところはこれで進めていいか。

(委員)

- これでいいと思う。

(議長)

- いいですか。

(委員)

- はい。データがしっかりあって、それに基づいて細かいところも作られているし、それで進められたらいいんじゃないかと思う。ただ、そうなったときに、結局、それを誰がするかとなったら、人がするわけだから、今後やっていく時の人の関わりしろを今までのやり方ではないやり方でしてもらえたらと思うだけ。そのアイデアが必要だと思う。

(議長)

- ・ありがとうございます。他にご意見はありませんか。

(委員)

- ・2点、要望がある。まず、いろんなページにあるが、振興ビジョンの具体的な施策、5つの基本ビジョンという中の3番目、「海外事業展開の支援や国際競争力の強化」の中で、①海外事業展開の支援強化というのは輸出も含めることになると思うが、5年から10年の期間でやっていくようになるので、「地元の中小企業者」のところに括弧書きで（農業者を含む）とかを入れてもらいたい。それをする事によって、次の数値目標が達成しやすいと思っている。
- ・もう1点は、同じ冊子の29ページ、第5章の「みらい公園湖南」を拠点とした新たな価値創出プロジェクトの中の2番目で、「併設する農園では…」となっていて、「…育成を行います」ということだが、これは何の育成を図られるのか。農業者ということでもいいのかという質問。例えば、農業者の育成を図ろうとしているのか。「…就農体験を通じて、多くの観光客を呼び込むとともに、意欲ある市民、団体と相互に連携し、育成を行います」となっている。日本語的に表現が少し不足していると思う。

(事務局)

- ・ご指摘、ありがとうございます。まず、最初の国際競争力に「農業者を含む」というところを書いたほうがいいのではないかとということについては、想定としてはもちろん、農業者も事業者として考えているところで、当然、農業者の生産物の輸出が増えることは好ましいことだと考えているので、追加する方向で考えていこうと思う。
- ・2番目の「育成を行います」は、言われるとおり表現が少し良くないと思う。新たに参入されるような農業者が増えていくような仕組みを「みらい公園湖南」の中で考えていければというように思っているので、そこについても書き方を検討させてもらい、農業者が増えていくような仕組みを考えていければと思っている。ありがとうございます。

(議長)

- ・よろしいですか。

(委員)

- ・はい。

(委員)

- ・まず、「実施事業」素案の1ページの下の方に、各機関との連携イメージ図が描かれているが、「教育機関」と「民間」を逆にするほうが、流れがスムーズではないかという気がするので、検討してほしいと思う。
- ・「SDGs」について、滋賀県の経済6団体ならびに滋賀県もいろいろと応援してもらっているので、できるだけ皆さんに周知をしていきたいということで、“SDGsとは何ぞや”というのを少し詳しく書いてもらえるとありがたい。それから、全体的に図表の中の字が細かく分かりづらいので、できる限り大きくしてほしい。以上3点、よろしくお願ひしたい。

(議長)

- ・ありがとうございました。

(委員)

- ・実施事業の中で、これを入れたらとても良いなと思うアイデアが1つある。「実施事業」素案の7ページ、「SDGsの視点に立った起業・第二創業支援」の中で、私の肌感覚だが、今、湖南省で20代、30代、40代ぐらいを含めて起業している人の半分ぐらいは、UターンかIターンの人だと思う。恐らく、市内にずっといた人が起業しているパターンというのは、若者だったらとても珍しいと思う。一番最後の「④市外からの起業の受け入れ」と書いているところをカテゴリー分けして、Uターンの人、Iターンの人とか、また、一回出てまだ帰って来ない人とかにPRしたら、もう少し起業者数は簡単に増やせるのではないかと思う。どうしても「市外からの起業者の受け入れ」とすると、IターンもUターンも全部ごっちゃになってしまうが、Iターンの人もUターンの人も事情がそれぞれ違うと思うので、そこはターゲットを細かくすると、受け入れ起業者数も増やせるし、面白い起業者も生まれるし、SDGsで湖南省が抱える何か解決できそうなもののアイデアを出しておくと、起業アイデアも出しやすいのではないかと思う。それは多分、ビジョンの4番に包括して入っている内容だと思うので、細かいところでそういうのが入っているとすごく良いと思った。

(事務局)

- ・ありがとうございます。言われるとおり、肌感覚的だがIターンやUターンの方々の創業が多いというのは今まで考えてきた。そういうところを実施計画にどう落とし込んでいくかということは、検討してみたいと思うが、いろんなところとの関係も考慮して、仕組みを少し考えてみたいと思う。

(議長)

- ・他に意見はいかがでしょうか。
- ・先ほど 29 ページの重点プロジェクトについて、以前は3つ挙がっていて、今は1つになっているが、これはこれだけでよいか。何か、これも入れておいてほしいというものはないか。例えば、創業の部分とかで具体的に何かを進めていく中で、もう少しここに力を入れてほしいというところが出てくると思うけれども。この関係では今、「みらい公園湖南」だけが上がっている。5つの基本ビジョンがあっても、1つしか上がっていないということ。もう少し増やしていくというのはどうか。実施する組織にとっては、もう少し力を入れたいというようなところがあるのなら、出てくればいいのかとも思う。

(委員)

- ・この「みらい公園湖南」というのがなぜ重点なのかというのが、そもそも分からない。そこにそれがあるから重点になっているということか。この施設が大きなお金を生み出すように変わってくるということがあまり想像できない。

(議長)

- ・5つの基本ビジョンがあって、具体的にここにより力を入れていったほうがスムーズに進むのではないかとということで、当初は3つ、例として入っていた。しかし、現状はこの「みらい公園湖南」だけが入っているが、進めるときには実際には幾つかあったほうがやりやすいと思う。ここだけに重点的に絞り込まなくてもいいのではないかという気がする。

(委員)

- ・この重点プロジェクトという意味は、限られた予算をここにいっぱい注ぎ込むということか。

(議長)

- ・いや、先行しながらここにより力を入れていったらどうかということで、当初3つのプロジェクトが入っていた。あるかないかということも当初、意見の中で聞いていたと思うが、今はこれだけが実現性が高いということでここに残っていると思う。

(委員)

- ・私は自分の事業として「ここぴあ」と「HAT」、体験農業施設とも、関わりがあるが、それぞれが今、単体で事業をされ、横のつながりが全くない。そこをまず何

とかしないと、いくらこのように書いていたところで何も変わらない。今のままだったら、何もできないんじゃないか。そこをまとめる団体をつくれれば変わるということだったら、市民は分かるのではないか。今は3つがバラバラで、誰に何を相談しても、「それはうちじゃないからあっちに行って」。こっちに相談したら、「それはうちじゃないから、あっちへ行って」「それは分からないから市役所へ行って」というのが今の現状。

- ・「湖南ブランド」というのがいろんなところに出てくるが、例えば湖南ブランドというのは具体的にこういうことをしていきたいというのがあれば、「これなら私が参加できる」とか、「こういうアイデアがあるよ」というのが明確になるのではないか。それが食なのか、工業製品なのか、全部総称して湖南ブランドというのか。それに対して、例えば、湖南ブランドというアイコンをもらって、市からも応援してもらえとか、そしてそこに審査があると、これなら私がチャレンジできる、そこに対して補助金が出るというのが明確に分かると、関わりたいという気持ちが強くなるのではないかと思う。

(議長)

- ・湖南ブランドは基本ビジョン2に少し入っていると思うので、重点的に実施していくのなら、それを重点プロジェクトの項目として入れてはどうかという意見ですね。

(委員)

- ・はい。うれしいです。

(議長)

- ・それは農業も関係するし、商店も関係するし、どこかの工場も関係するということなので、そういう項目を入れてほしいという意見として受けたいと思う。
- ・私の個人的な意見だが、基本ビジョン5の人材育成のところに入れるか、基本ビジョン3の海外事業展開への支援の中に入れてほしいが、今、女性とか高齢者もあるが、外国人材の受け入れの問題が入ってきている。今、なかなか外国人材の受け入れが市民には非常に分かりづらいところがあると思う。実は日本国内で外国人材をどう生かしていくかというのが、今後必要になってくる部分で、滋賀県でも人口が減少してきているし、湖南省でも減少傾向にある。それをカバーするためには、どうしても外国人材に入ってきてもらう必要があるという気がしている。だから、外国人材をそのまま受け入れるのではなくて、例えば、外国人材の教育や活用という形で、ある程度外国人材を日本語学校などで、語学で通じ合うとか生活習慣が分かれば、ある程度カバーできると思う。
- ・先日、北海道の公立の日本学校を視察に行ったが、そこには短期も長期も含めて

10年間で3,000人ぐらいの外国人材が入ってくる。そこで情報発信しながらそこに雇用が生まれるとか、いろんな形で経済効果が生まれている。

- ・そこで、滋賀県内で在留外国人の比率が高い湖南市で、その人材をもう少し活かすとか、あるいはもう少し他の人を呼んで高度人材を育てていくとか、そういう形ができないかと思う。もし文章の中に入れてもらえるなら、「女性、高齢者、外国人材の活用促進」ではなくて、「…の教育、活用促進」という形でうまく外国人材を教育しながら、それを活用していく、市としてアプローチしていけないか。そうすると、その人材が農業をしたり、あるいは貿易をしたりするのではないかと思う。そのあたりを少し考えてもらって、ぜひ、SDGs 17番のグローバル・パートナーシップという項目として活用できないかというように個人的には思っている。

(委員)

- ・とてもいいと思う。ビジョン素案の24ページの第2次総合計画の中で、今回のこのビジョンが総合計画の施策の5番目の「いきいきとした暮らしをつくろう」の「若者の社会参画」とか「社会教育の推進」というのと離れていると思う。ここをはっきりと分けるのは分かりやすいが、子供の教育と学生の教育に加え、大人の教育のようなものも入れてほしい。湖南市で働いている人はプライベートの時間が多いと思うので、大人の教育のようなものが仕事に結びついたり、キャリアアップに結びつくような具体的施策があると、先の起業支援にもなるし、会社としてのスキルアップや、その人の生きる力を伸ばすところにもなると思う。そうして一人ひとりの収入が増えると、小さいけれども産業振興にもつながると思う。外国人の教育支援、活用を入れるときにはできたら学生の教育や大人の教育、その教育は生きる力を伸ばすような内容を入れてほしい。

(議長)

- ・ありがとうございます。他にいかがですか。

(委員)

- ・企業誘致といっても幅が広い。製造業ばかり誘致しても、地域の活性化にはならないと思う。だから、企業誘致の中でも研究所の誘致を進めないといけない。なぜ研究所が必要かという、いろんな文化によって多文化になってくるということ。起業も必要だが、研究開発型の企業も誘致していく必要がある。そういう誘致というのは、何万坪も何十万坪も要らないし、5千坪、1万坪ぐらいの研究所を持ってくれば、大きな活用ができる。今、湖南市は製造業で働くことばかりに注目されている。
- ・もうひとつ、外国人の仕事というのがあるが、基本的に根本的なことを忘れている。

今、研修生でどんどん技術職が入ってきている。そこにただ、働きに来るだけの感覚でものを考えているけれども、法律が変わって外国人の定住者が増えてくるといふことだ。現実には、今までに入ってきたブラジル人は自分の家も買うようになってきた。湖南省で家を買うのは非常に高いと思う。このことについてのデータは出ていないが。ブラジル、インドネシア、マレーシアから技術職で入ってきて5年もいると、就業ビザを取れば定住はできるようになる。ほとんどの企業での外国人材は日本で働いて、日本で住みたい。なぜかという、ハイレベルな文化、教育があるから。そういうことも考えていかないとなかなか無理だ。そういうところが少し欠けている。

- ・今、気がついたこの2点を湖南省の戦略の中にもう少し入れていただけたらどうか。

(議長)

- ・ありがとうございます。他にご意見、いかがでしょうか。

(委員)

- ・「湖南ブランドの確立」というところでいつも引っかかるが、商工会も観光協会もそれぞれ一所懸命、湖南ブランドを考えてはいるが、全部、実際ものを作った時点で、尻切れトンボになってしまうという状態がもう何年も続いている。それぞれが一緒になって、同じことを一所懸命やっているが、市のテコ入れというか、市と観光協会、商工会とかがもっと連携して本気でやらないといけない。せっかくいい形になってきた「弥平とうがらし」が、今、存続の危機のような状況で、後をやってくれる人がいない状態になっているので、そういうところをもっと真剣に後押ししていただきたいと思っている。
- ・人材育成や労働力確保についてだが、湖南省内の社長はみんな人材不足で困っているので、もっと市役所が“こういう人がいるよ”と知らせてもらえると、とてもうれしい。実際、生活していて、仕事をしていて、いつもそういうことを考えている。

(議長)

- ・ありがとうございます。湖南ブランドの部分で、もう一度ここに重点項目として入れてもらい、そういう仕組みをつくって、生産から販売までをある程度サポートするような形で入れたらと思う。
- ・先ほどの北海道に行った話をしたが、その市は人口8,000人の町だが、実は地域おこし協力隊が40人ぐらい、国際交流員が8人ぐらいいるという、とても海外に開かれた町になっている。国からその人たちの給料が出ていて、2年間とか3年間住んで地域おこしを精力的にやってくれれば、市のサポートにもなってくるといふところもある。そういう仕組みをうまく使うとしたら、できる話ではないかと思う。

- ・ただ、やっていくのは、住んでいる市民が主になっていかないといけないので、やはりある程度、それも継続しながら各機関でやっていくというつながりの中で、湖南ブランドの項目を入れるということで検討していきたいと思う。

(委員)

- ・先ほどの人材育成のことについては、すごく賛同します。特に大人の人材育成という部分について、書き込みができればいいと思った。
- ・学校を預かっている者として、それよりも少し年代的には下の子どもを扱っているが、そこに対しても、今、いろいろなキャリア教育というようなものも含めて取り組んでいるところである。そのような子どもたちが今度、大学とかその他のところに行って、またUターンとかで湖南省に協力ができるような人材の育成をしていかないといけないということもあり、コミュニティースクールで地域に根差すような活動をしようと、今、考えているところ。しかし、直接、産業に関わる年代の人への教育の部分で少しでも書き込めるのであれば、とてもいいと思う。そういうように検討してもらえればと思っている。

(議長)

- ・ありがとうございます。もし入れるとすると、基本ビジョン5の人材育成とか職場環境の改善という部分に組み立てて入れるということでどうか。

(委員)

- ・23 ページの基本ビジョン5のあたりに、書き込みがあればよいが。

(議長)

- ・はい、分かりました。

(委員)

- ・SDGsのことで少し違和感がある。「実施事業」の3ページで基本ビジョン1、SDGsのアイコン6番「安全な水とトイレを世界中に」という青いアイコンがあるが、基本ビジョン1「企業進出や定着のための規制緩和、インフラ整備」のところにも、「安全な水とトイレを世界中に」というアイコンがついている。これは住民も見ることになるが、何のことやら分かる人は恐らく少ないのではないかと思う。なぜこのマークがここにあるのかみたいなことも、住民にも分かるようにしておくことが必要だと思う。
- ・もうひとつ気になったのが、「実施事業」の最後に、「湖南省内陸型国際総合物流ターミナル構想を起点とした政策展開」というのが参考資料で載っているが、ここに

これを掲載する意図、どこと絡んでいるのかというのを説明してほしい。

(事務局)

- ・参考資料ということで 17 ページに掲載している国際物流関連のことだと思うが、本来の趣旨としては、これまで湖南省が政策的に進めてきた各種の取り組みを紹介できるような場を用意したいと思い、こうした資料を付けたということ。したがって、国際物流関連だけでなく、例えば農業者向けの支援や中小企業者向けの各種施策などのいろんな過去からの取り組みを記載できればと思っている。果たしてこれはプランのほうに書くものなのか、それともこれまでの取り組みを紹介するのであればビジョンのほうに書くべきなのか、また改めて先生にも教えてもらい、考えていきたいと思っている。

(委員)

- ・この参考資料の真ん中あたりから、年表が 3 つの部分に分かれていて、「物流ターミナル」「産業団地」「独自の支援策」とある。その中の物流ターミナルというのが、平成 30 年度時点で、「補填が必要」や「物流網の再編が困難」、「マッチングが困難」というように赤い色で強調して書いてあるが、この物流ターミナル構想は掲げてはみたけれども、頓挫しつつあるようなことなのか。

(事務局)

- ・物流ターミナル構想自体は検討してきたところ。その検討結果として、30 年のところに①②③というところがあって、進めていくに当たって困難なことがあるということが分かってきたということ。したがって、ここにあるような国際総合物流ターミナル構想本来の国際的な物流の拠点というよりは、コンテナなどを集めて拠点になるというような発想は下げて、例えば、物流の拠点として活用できるような、国際的なものではなくて、近畿地方における東西のハブ機能といった、地理的な優位性を活用しながら国内の物流の拠点になったり、あるいは産業団地といったものの支援というものを市として引き続きやっていきたいと考えているので、そういう流れを説明した資料として用意したというもの。

(委員)

- ・分かりました。なぜ、そこを確認したかということ、「実施事業」のほうの 3 ページの一番下の表の③に「産業団地などへの流通拠点施設（データセンターなど）の誘致」と記載されているが、こういうプランを作ったら、やはり地域住民に地域の何かが変わるというのをアピールしたほうがよいと思う。
- ・このデータセンターというのは、例えば東京などに本社を置いている大企業が企業

として持っているデータを地震とかで駄目になるのが怖いので、そういうことのない、例えば沖縄とか、距離的には離れているが、ネットワークで結ばれていればすぐ出し入れができる、そういう場所に移すというもので、最近、とても多く行われている。実際、モノが動く、動かないではなくて、そういう、今、重要視されているデータを持っていける地域みたいなことを行政が考えているのなら、湖南省がどういうように地域のものづくりを考えて、これまで頼ってきたもの以外の何かを使ったり、もしくはこれまで埋もれていたものの中の何かを取り出して、これからの地域の成長に使っていかうとしているとか、そういうのが見えたほうがいいと思う。「データセンターなど」とさらっと書いてあるが、なぜこれが重要なのかというのが住民に伝わらないと思う。

- ・私はこういうことを勉強しているので、「ああ、そうなんだ」というように気づくが、地域住民に気づいてもらわないと、パブリックコメントで意見が集まらないような問題になったるので、どう考えて、こういうことをやるんだという説明的な文章にすれば、地域住民も読みやすいと思う。
- ・ビジョンの素案のほうの 22 ページに、「弥平とうがらし」の G I 登録を検討する、それでブランド化を進めていくという形になっているが、「弥平とうがらし」は地域団体商標の登録がまだか。

(事務局)

- ・まだです。

(委員)

- ・「下田なす」も確かそうだったと思うが、G I 登録されたらどうなるのかというのが地域住民の多くが分からないと思うので、登録されたらどうなるのだということがちょっとでも情報として書かれていると、「ああ、そういう取り組みなんだ」と理解も得られるのではないかと思う。
- ・何ができていないからこれをやろうとしているということを、SWOT分析の結果、弱点が出てきたのでこうだというのではなくて、もうちょっと地域住民にも分かりやすく表現してもらえればいいかと思う。入っている項目自体を批判的にみているとかではなくて、いいことが入っているので、もう少し分かりやすくすればと思う。

(議長)

- ・ありがとうございます。この点は修正してもらいます。言葉足らずの部分の加筆してもらおうと思う。
- ・最後についていた資料については、実際には要らない資料に近いと思うので、ここに付いているのはちょっと誤ったという感じがする。

- ・先ほど、データセンターの話があったが、その辺はもう一回精査をして、きちっとした文章で出したいと思うので、市で検討して、ちゃんとした言葉にしてもらおうということをお願いしたい。
- ・他にいかがでしょうか。特にございませんでしょうか。大体これでまとめていってよろしいでしょうか。観光分野はこれでいいか。
- ・それでは、もし可能であれば重点項目の中に、先ほど言いました「湖南ブランド」の部分を入れてもらうという点と、あと個々の細かいところで各委員からの意見があったところを加筆してもらう。それから、SDGsについてはもう一回きちっと見てもらい、適正なものを入れる。そういうところで、市と委託事業者でまとめてもらうということによろしいでしょうか。

(事務局)

- ・いくつか、議長からも言ってもらったとおり、庁内で検討していきたいと思う。いくつかコメントをもらったが、人材に関する話を結構、出してもらったと思っている。その対象として学生なのか、それとも外国人なのか、あるいは大人なのかというようなどころが出てきて、論点としては重要だと考えている。産業振興ビジョンの中にも、落としていけるところについては庁内でしっかり検討した上で落としていこうと考えているが、縦割り行政のような話になって大変申し訳ないが、ものによっては教育や福祉といった部署とも話をしながら進めていかなければいけないことも出てくると考えている。
- ・今、市の総合計画の見直しの時期でもあり、そちらでも落としていけるところはそちらのほうにも落としていければというように考えている。広く、総合的に考えたほうがいいのかというものに関してはそちらのほうにおいて検討していくというところも、部内で検討しながら進めていければと思っているので、その点も認識をいただければと考えている。
- ・その他の細かな、例えばSDGsのブラッシュアップがしっかりできていないとかの点については、精査した上で対応していきたい。それから、「湖南ブランド」の話については、重点プロジェクトとして検討するという方向で進めていきたいと考えている。

(議長)

- ・以上、これでよろしいですか。
- ・では、少し直したものを素案として各委員に送ってもらうということによろしいですか。言い足りないところはございませんか。

(委員)

- ・聞いてみたいことがあるが、先週の土曜日に滋賀大学と滋賀県立大学の学生 10 人ぐらいからいろいろな話を聞いていたら、滋賀大学の学生は卒業後、基本、県外への就職が中心だが、県立大学の学生は県内に就職する率が高いと聞いたが、これは本当か。学生たちが言ったのは、滋賀大学は外に目を向けて、県立大学は県内の就職先に目を向けているということだったが、そうすると滋賀大学に就職をアピールしても、そもそもそういう学生がいないのだからダメで、県立大学を中心的にやったほうがいいのではないか。

(委員)

- ・学部、学科によると思う。

(委員)

- ・全体的にそうだと聞いた。

(委員)

- ・滋賀県内への就職というのではなくて、私が所属する学部、学科では自分の地元志向が強い。県立大学は工学部を持っていて、学生は卒業して技術者になったりエンジニアになったりする。大学がある彦根は地場産業が盛んなところで、いわゆる中小企業の工場がたくさんあり、彦根は水道の蛇口とかを作っている産地だ。県立大学は県内就職が多いということイメージがあるかもしれないが、県立大学に工学部があるのに、就職先でそういうところに行かない。

(委員)

- ・知らないからか。

(委員)

- ・それもある。自分が通っている大学のある地域の地場産業を知らない学生が工学部にはたくさんいるので、県立大学では県内就職が多いかと問われると、私の個人的な見解は、必ずしもそうではないという形になってしまう。

(委員)

- ・滋賀大学はどうか。

(議長)

- ・県外から来ている学生が結構、多い。だから、地元に戻っているというのものもあるし、確かに経済学部でいえば金融系が多いというのがあるので、金融機関に就職してい

るケースというのが多々ある。確かに、県内の就職率が高いかといわれると、低いかもしれない。ただ、教育学部は高い。

(委員)

- ・今、県立大学といいながら県内出身者の割合が県外から来ている学生より少なくなり、従来の割合が逆転した。

(議長)

- ・これを機会に、例えば湖南省でいろんな事業を実施されるときに、滋賀大学や県立大学の学生を使ってもらい一緒にイベントをすれば、県内の企業に就職しようという人が出てくる可能性は無きにしもあらずだ。インターンシップで就職する人も結構たくさん出てきているので。

(委員)

- ・栗東市にある県立国際情報高校の工業科に行っているほとんどの生徒は県内就職する。高校生は選択肢が1個しかないからそこに就職するが、大学生はいっぱいあるから、やはり県外に出ると思う。こういうことは、若者の就職にも関わってくると思うので、そういうターゲットを見誤ると、予算をそこにたくさん注ぎ込んでも全然就職しないということにもなるのではないかと思うので、聞いてみた。甲西高校はほぼ進学か。

(委員)

- ・私どもの高校の特徴は、就職は5人ほどしかいなくて、ほとんどが進学希望。今、話があったように、県立大学にも今年は3人が入学するなることになり、この地域の生徒の特性というと、どちらかという地域志向が多いこと。例えば、東京とか関東圏とかそういうところに行こうという志望は少なく、この地域から通えるところに行く生徒が多いので、地元で貢献できるような人材を育成していかないといけないと考えている。

(委員)

- ・高校生の頃からそういう地域の産業とかを知っておくと、将来的に4年後、選択肢のひとつとして入っているといいと思う。

(委員)

- ・実際の教育の中で、今、「探求」という授業が今年から始まっているので、そういうものを使いながらこの地域のキャリア教育、またはこの地域の課題を勉強しながら

ら解決していくというような学習の仕方を取り入れながら、いろんなことで地域を知るといのは大事なことだと思う。そういうところへ少しでも貢献できれば学校としてもありがたいと思うし、また考えていかなければいけないと思っている。

(委員)

- ・去年だが、商工会の行事として地元企業の代表たちが甲西中学に1時間講演に行くと、生徒たち10人から20人に対してそれぞれが話しをするという場を持ってもらい、子どもたちにも好評だったようで、お礼の言葉をたくさんもらった。企業経営者たちと生徒たちの触れ合いなどが増えていけば良いし、それを続けていけたら良いと思っている。

(委員)

- ・今の就職の問題だが、就労者の問題だ。正直いって、現場で働く人が製造業に来ない。もう一つは教育の問題もあり、語学力がなかったら現場で働けない。ほとんど図面も横文字になってきているし、技術の基本図面だと日本語で書いてあるものはひとつもない。だから、ついていけないという現実がある。パッと読み取ってパッと反応していくということが必要だ。製造業のベースでも、基本的な基礎知識は徹底してつけておかないといけない。企業の中もほとんどコンピュータで、コンピュータの図面から読み取って図面制御していくのだから、そのコンピュータの打ち込みができなかったら製品は出てこない。だからハイテクとか、何とかと言葉はきれいに書けるけれども、現実のそういう教育をキチンとしておかないと本当はできない。
- ・いろんな大学でグローバルにもものを考えたり、海外に行ったり、ファイナンス系や研究所、ケミカル系といろいろなものがあるが、学生の目にはそういうところしか入ってこない。大学院へ行って高度な技術をもう一回習得すれば、自分の所得は増える。湖南省もそういう考え方を持っている社会にいろんな政策論を持っていかないと無理ではないかと、最近いろんなところに行って実感している。

(議長)

- ・ありがとうございます。他にご意見がなければ、これで終了させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、事務局、よろしくお願いいたします。

5. 閉会

(商工観光労政課)

以上